



地域経済振興発展の戦略(3) : 富良野市まちづくりの事例

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2012-11-07 キーワード: 作成者: 亀畑, 義彦, 中根, 正彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00003909

地域経済振興発展の戦略(3)

—富良野市まちづくりの事例—

亀畑 義彦・中根 正彦

On the Strategy for the development of Regional Economy.(3)

Yoshihiko Kamehata Masahiko Nakane.

第3章 イベントによる活性化の事例

1. 北海へそ祭り

北海道中央経緯度観測標、いわゆる中心標が富良野小学校庭にあり、1971年7月13日富良野市指定文化財第2号に指定されている。中心標の起源は、1909～1919年頃京都大学教授、山本一清工学博士が星座、緯度観測、地球重力測定を実施した際、測定機器を設置するため1㎡のコンクリート台と直径約10cmの杭を打ち込み測定の起点にしたことに始まり、1956年竹内武夫氏が、北海道中央経緯度観測標と命名し北海道文化財百選に応募し選定されている。1959年9月8日、北海道新聞企画記事である北海道意外帳で北海道のへそであることが確認されたが、建設省国土地理院地方測量部の回答でも、北海道北端のノシャップ岬は北緯45度30分、南端の白神岬は北緯41度30分、東端のノサップ岬は東経145度10分、西端の奥尻島は東経139度3分であることから、富良野市の北緯43度24分、東経142度16分は、ほぼ中心であることが立証された。富良野市郷土研究会が1987年に実施したへそアンケート調査によると、スイス、オーストリア、アメリカ、ユーゴスラビア、フランスの5か国に中心標が存在していることが判明している。^(註1)日本の中心地は兵庫県西脇市にあり、日本と北海道のへそ同志で1978年10月20日友好都市親善協定が締結され、姉妹都市として教育、文化、スポーツ、行政の各分野に渡って交流と親善を深めている。

富良野市では、この中心を人体のへそにたとえ、観光客の入り込もなく農産物も端境期に入る夏の富良野に活気を与えたという試みから市民有志により北海へそ祭りが創案された。この祭りは、1969年8月15日が第1回目以後毎年開催されている。

第1回目は、踊り手290人、観客数3,500人の小規模で、踊り手のうち図原踊りは僅か11人でそれも頼み込んで踊ってもらったのが実情であった。第6回には、祭りを盛り上げようと青年会議所のメンバー等120人が図原踊りに参加し、へそ神社と呼ばれる北真神社が建立された。

第11回からは、開催要領を作成し、期日を7月28日、29日の2日間に指定し、この日を親と子の

愛情の絆、市民同志の絆を確認する日と定め、市民ぐるみで実行委員会を組織して祭りを拡大している。1981年の第13回は、テレビドラマ「北の国から」のロケーションが行われ全国放送された影響もあり、翌年の第14回では観客数が50,000人に増加した。第19回は、踊り手4,500人、観客数65,000人、1988年の第20回は、7月28日が踊り手75団体、3,600人、そのうち函原踊り480人、観客数50,000人、29日が踊り手44団体、2,100人、そのうち函原踊り400人、観客数3,500人、2日間で踊り手119団体、5,700人、観客数85,000人と過去最高を記録した。

北海道有数の夏祭に成長した背景として、市民への浸透に加えて、腹にユーモラスな絵を描いて踊り歩くというユニークさが観光客誘致に結びついたこと、協賛行事が増え規模が拡大されたこと、今まで好天に恵まれ中止にならなかったことなどがあげられる。

この祭りの特徴は、イベント多発到来以前から他市町村にまねのできない中心地 という地理的条件を活用し、踊りという文化的特性を加えてこれにこだわり続けてきたところにある。

第20回北海へそ祭りについて具体的に述べてみたい。

第20回という節目は、第1に北海へそ祭り20周年、西脇市との友好都市親善協定10周年記念式典を挙行すること、第2に、わたしたちは北海道の中心標が立つ富良野の市民ですという市民憲章に基づき、踊りの理念を再確認し多くの市民の参集を求めること、第3に観光客をも配慮し、誰でも楽しく参加できる祭りとするなどを柱に実施された。

主催は、富良野市と北海へそ祭り実行委員会であり、実行委員会は、事務局のほか総務部、記念式典部、資金部、演出・企画部、宣伝部、祭事部、放送部、特産市場、交通警察部で組織されている。実行委員会では、1987年11月に第20回北海へそ祭り策定委員会を設置して行事内容の検討を依頼している。策定委員会では、資金計画、動員計画、宣伝計画、行事施設計画、協賛計画の6部会を設置し、詳細な調査研究の結果を実行委員長（富良野市長）に答申している。答申書では、従来の催事や協賛行事に加え、写真、農産物、ワイン、西脇の各フェアの開催、第20回目を記念しての式典と功労者顕彰の提唱、踊り手の動員計画、連合町内会や観光客用の衣装の購入など多数の人が参加し係わり合いを持てるような祭りを追求すべきであることが提唱されている。情報宣伝については、祭りへの参加、意識の高揚、誘客効果につながるように活用できる全ての情報媒体を通して宣伝普及に努めるべきとし、市民意識を盛り上げるために作製するシンボルマーク、サブテーマ、テレホンカード、Tシャツ、カンパッチのデザインなどは市民から募集すべきとしている。

第20回北海へそ祭りのプログラムは、次の通りである。

7月24日

◎第13回北海イカダ下り I N空知川 11:00 布部大橋スタート

7月25日

◎北海タイムス花火大会 19:45 5条大橋河畔

7月27日

◎ミスふらのコンテスト審査会 18:30

◎ビールパーティー

◎生バンド演奏 歌手貴津あきら出演

◎みこしが来るぞ 18:30~20:00 39人の女みこし

◎へそもちつき 19:30~20:00

◎へそ民話 富良野高校漫研のアニメスライド

7月28日

◎中心祭 12:30~ 中心標公園 富良野市の発展と市民の健康を祈願

地域経済振興発展の戦略(3)

- ◎記念音楽パレード 13:00~13:30 中心標公園~祭り広場 市内小学校が参加
- ◎祭り広場テープカットと開会式 13:30~14:30 祭り広場 記念式典と功労者表彰
- ◎流しソーメン 14:30~15:15 祭り広場
- ◎チビッ子ふれあい広場 14:30~17:00 祭り広場 プール、ローラースケート、スケードボードコーナー
- ◎市民パフォーマンス広場 13:30~17:00 まつり広場 広場を市民に開放
- ◎第8回ふらのへそマラソン大会 15:00~17:30 特設コース
- ◎石上久美子ONステージ 15:50~16:00 特設舞台 北海へそ音頭、北海暴れん坊などを披露
- ◎ミスふらのの披露 16:00~ 特設舞台 ミスふらの、ミスワイン、ミスキーの披露
- ◎カンバッチデザイン等の表彰 16:20~ 特設舞台 募集作品の入賞者表彰
- ◎弥栄太鼓の演奏 16:40~17:00 特設舞台 空知川流れ打ち他
- ◎写真展、図腹絵展示コーナー 13:30~21:00 祭り広場 第1回からの写真展、小中学生の図腹絵展示
- ◎特産品展示即売会 13:30~21:00 東2条通り 木彫、銘菓、民芸品、記念商品など
- ◎郵趣コーナー 13:30~21:00 東2条通り 記念切手、葉書などの展示即売
- ◎北真神社宵宮祭 16:00~ 北真神社
- ◎子供へそ踊り大会 18:00~18:30 祭り広場
- ◎北海へそみこし 18:30~19:00 祭り広場 北海へそみこし期成会
- ◎北海へそ踊りパレード 18:30~19:00
- ◎北海へそ踊り大会 19:00~21:00 祭り広場

7月29日

- ◎ラジコン大会 9:00~15:00 祭り広場 電動カーラジコンレース大会
- ◎チビッ子ふれあい広場 10:00~17:00 祭り広場
- ◎北真神社例大祭 10:00~11:00 北真神社
- ◎市民パフォーマンス広場 11:00~17:00 祭り広場
- ◎へそ力綱引き大会 12:30~16:00 祭り広場 1チーム総体重398kg以内、女性1名以上
- ◎石上久美子オンステージ 13:00~13:30 特設舞台 北海へそ音頭、北海暴れん坊などを披露
- ◎弥栄太鼓の演奏 13:30~14:00 特設舞台
- ◎NTTふれあいゲーム大会 14:00~15:00 特設舞台、電話を話題にしたクイズゲーム
- ◎富良野高吹奏楽部演奏会 14:00~14:30 祭り広場
- ◎女腕相撲大会 15:00~15:30 祭り広場
- ◎マスコットと写真をとろう 13:30~14:00 祭り広場
- ◎DJタイム 15:00~16:00 祭り広場 祭り行事紹介
- ◎特産品展示即売会 10:00~21:00 東2条通り 木彫、銘菓、民芸品、記念商品など
- ◎郵趣コーナー 10:00~21:00 東2条通り 記念切手、葉書などの展示即売
- ◎写真展、図腹絵展示コーナー 10:00~17:00 祭り広場
- ◎北海へそ踊りパレード 18:00~19:00
- ◎ハラハラパフォーマンス 19:00~20:00 祭り広場
- ◎北海へそ踊り大会 19:00~21:00 祭り広場

実行委員会による反省・改善事項を要約すると、次の通りである。

(1) 反省事項

- ◎連合町内会単位の踊り参加者が増加した。事業所の積極的な参加が目立ち、子供の参加も増えた。
- ◎飛入り客用の図腹踊り衣装を300組用意したが100%活用された。
- ◎歌手石上久美子のへそ音頭熱唱が踊り手、観客にも大好評であった。
- ◎お祭り広場が広くて子供たちが伸び伸び遊べた。
- ◎初登場の女性だけの北海みこしが祭りを盛り上げた。

(2) 改善事項

- ◎観光客誘致のため1か月前に道内旅行会社に売り込みを行ったが遅く、半年前から働きかける必要がある(宣伝部)。
- ◎ミスコンテストの在り方や選考方法などミスふらのコンテストの見直しを行う必要がある(演出・企画部と施設部)。
- ◎北真神社の位置所在など宣伝不足である(祭事部)。
- ◎図腹を書ける人が不足しており、将来敏速に対応するためには50~60名の養成が必要である(へそ踊り部)。
- ◎へそ音頭のカラオケテープができたので、へそ音頭のカラオケ選手権を実施して入賞者にステージで歌える資格を与えるべきである(放送部)。

実行委員会では、こうした意見を参考に次回以降のへそ祭りに反映させて北海道のイベントに育てていくことにしている。

収支決算は表7の通りである。残高処分は、残金2,477,351円のうち2,400,000円を北海道へそ祭り振興基金に積み立し、77,351円を第21回北海へそ祭り会計へ繰越した。

第20回北海へそ祭り記念品販売特別会計収支決算では、1988年7月15日から10月28日の期間で、記念販売収入は1,414,520円である。その内訳は、テレホンカード(写真)850枚651,520円、テレホンカード(絵)300枚224,000円、Tシャツ219枚369,400円、カンバッチ494個69,100円、うちわ・タオル390セット100,500円である。支出済額は、記念品製造費として1,789,000円で、内訳は、テレホンカード(写真)1,000枚620,000円、テレホンカード(絵)500枚330,000円、Tシャツ500枚600,000円、カンバッチ600個63,000円、タオル1,000枚90,000円、うちわ1,000枚85,000円、送料1,000円である。収入、支出の差引不足額374,480円は、第20回北海へそ祭り会計の仮払いにより調整し、在庫商品の販売により随時第21回以降の会計に返済する。在庫商品のうち、カンバッチ106個、うちわ・タオル610セットは、観光宣伝に使用のため並びに観光協会に提供することとし、テレホンカード(写真)150枚、テレホンカード(絵)200枚280,000円、Tシャツ281枚505,800円、計785,800円を今後の販売収入見込みとうると差引収益見込額は411,320円となる。

2. ふらのワイン・ぶどう祭り

ふらのワイン・ぶどう祭りは、1987年にふらのワイン発売10周年とその製造元である富良野市ぶどう果樹研究所設置15周年を記念して第1回を開催し、今後成長していくイベントの1つである。

趣旨は、農業に観光を加えた基幹産業をより発展させていく一環として、秋空の下で十勝岳連峰を眺望しながら特産ふらのワインを飲み秋の味覚を存分に食べ、市民と観光客の交流により富良野の良さを広く知ってもらい、特色ある観光行事として宣伝、普及を図る。加えて、催事を通して連体意識の高揚、融和、郷土愛を深めるとともに、この祭りを広く内外に紹介して富良野市の産業、経済の発展に役立てることにある。開催は毎年9月とし、会場は富良野市清水山グリーンランドで

表7 第20回北海へそ祭り会計収支決算書

自 1988年5月27日
至 1988年10月28日

収入 済 額 21,951,500円
支出 済 額 19,474,149円
差引 残 高 2,477,351円

③ 収入の部

区 分	予 定 項 目	収 入 済 額	差 引 増 減	備 考
1. 市・観光会補助金	市補助金	5,300,000	0	
	観光会補助金	2,000,000	0	
	観光会補助金	3,300,000	0	
2. 共済金	共済金	300,000	0	
	共済金	150,000	0	
3. 協賛金	協賛金	150,000	0	
	協賛金	150,000	0	
4. 市内助成金	市内助成金	11,010,000	772,044	
	市内助成金	3,780,000	443,914	
5. 市内助成金	市内助成金	700,000	329,600	
	市内助成金	700,000	1,470	
6. 記念品販売金	記念品販売金	0	0	
	記念品販売金	0	0	
7. 雑収入	雑収入	0	76,498	
	雑収入	0	76,498	
8. 借入金	借入金	0	2,950	
	借入金	0	2,950	
合 計		21,100,000	21,951,500	851,500

④ 支出の部

区 分	予 定 項 目	支 出 済 額	差 引 増 減	備 考
1. 総務費	総務費	2,200,000	2,127,268	72,732
	総務費	600,000	539,910	60,090
2. 記念式典費	記念式典費	100,000	100,000	0
	記念式典費	100,000	100,000	0
3. 広報費	広報費	1,250,000	1,263,309	33,309
	広報費	3,800,000	3,772,255	27,745
4. 建設費	建設費	600,000	507,150	92,850
	建設費	600,000	507,150	92,850
5. 会場費	会場費	300,000	300,000	0
	会場費	300,000	300,000	0
6. 協賛費	協賛費	2,350,000	2,303,497	46,503
	協賛費	150,000	192,768	42,768
7. 交通費	交通費	300,000	270,161	29,839
	交通費	1,200,000	1,047,891	152,109
8. 印刷費	印刷費	1,300,000	1,169,850	130,150
	印刷費	150,000	116,240	33,760
9. 雑費	雑費	2,400,000	1,874,530	525,470
	雑費	1,760,000	1,753,200	6,800
10. 雑費	雑費	650,000	0	650,000
	雑費	380,000	374,400	5,600
合 計		21,100,000	19,474,149	1,625,851

(出所：北海へそ祭り実行委員会資料)

ある。

主催は、富良野市とふらのワイン・ぶどう祭り実行委員会である。実行委員会は、各関係機関団体、その他趣旨に協賛する団体等をもって構成、顧問のほかには会長1名、副会長若干名、監事3名を置き任期は3年とし、役員改選、収支予算並びに決算、その他議題について協議を行うが、円滑な運営を図るために運営委員会や部会、事務局体制を組織する。

各部の業務内容については次のごとくである。

- ◎総務部 実行委員会局組織の編制並びに委嘱、実行委員会名簿の整理、関係機関及び各団体との連絡調整、市内外への宣伝普及、入場券の印刷及び販売、オープンセレモニー、全体行事、内容並びに各部会との連絡調整、記録写真、保健所との連絡調整、その他渉外、全体収支予算計画に関すること。
- ◎接待部 飲物、食物の調達、食物の加工、来賓者の接待に関すること。
- ◎施設部 祭り会場の設営、会場設営に係るテント、椅子、机等の借用に関すること。
- ◎交通部 来賓者(車)の駐車条案内と整理、臨時駐車場及び交通案内板の作成と設置、来賓者(歩道利用)の案内、整理、連絡バス運行計画に関すること。
- ◎会場部 会場内及び通路の整理、祭り会場境界の設営と警備、ゴミ処分計画に関すること。
- ◎アトラクション部 特設舞台、会場内の放送及び音響、舞台行事計画に関すること。

88ふらのワイン・ぶどう祭りは、第2回目で9月24日、25日の2日間連続開催である。24日(土曜日)は午後12時から午後3時、25日(日曜日)は午前11時から午後2時の実施で、オープンセレモニーとして、テープカット、富良野市長の開会挨拶、ぶどう娘の役を勤めるミスワイン紹介の後、祭りが始まった。飲物は、ふらのワインロゼ、ふらの牛乳、ぶどうジュースで飲み放題、食物は、牛肉、ジャガイモ、カボチャ、トウモロコシの食べ放題のほか、ふらのチーズ、ワイン用ぶどう、おにぎりの試食コーナーも設置された。第1回との相違は、牛肉串焼から牛肉バーベキューに変更したこと、パンを中止して富良野米を使用したおにぎりを用意したことである。特設舞台の演出は、へそ踊りなど市民を中心に演出するように計画されたほか、タレントの声帯模写などのショーも繰り広げられた。

参加募集方法は、市民と観光客を対象に新聞、パンフレットなどで宣伝し、申込みは前売入場券または予約受付である。前売券取扱所は、市内12か所と町内部落連合会長宅、当日券は、祭り会場など市内4か所で販売した。

入場料金は、前売券が大人2,500円、中高生2,000円、小人1,500円。当日券は各300円増しで、第1回に比べ前売、当日券ともに500円値上がりしている。

入場者実績は、9月24日が1,023人で、大人982人、中高生8人、小人33人、25日が1,701人で、大人1,488人、中高生31人、小人182人であり、2日間の総数は、2,724人で、大人2,470人(90.7%)、中高生39人(1.4%)、小人215人(7.9%)であった。

1988年11月4日開催の実行委員会では、反省、改善事項が以下の内容で報告された。

反省事項

(1)集客について

◎市内外の宣伝不足で入場者数が予定人員より下回った。

◎旅行代理店に対する取り組は、半年前に企画内容を決め、パンフレット等を作成し持参して売り込む必要がある。また手数料10%は予算との関連があるが、将来的に考えると支払うことが望ましい。

(2)雨天決行について

◎入場券に明示されていなかった。雨天決行にも種々の状況があり、万一に備えてあらかじめ対応策を決めておく必要がある。

(3)飲み放題、食べ放題について

◎牛肉、農産物については、市内の参加者、旅行団体者からも評判は良かった。おにぎりの評判は特に良かったが、冷えすぎの声も聞かれた。

◎バーベキューは、牛肉だけで野菜がないため、野菜を入れて欲しいとの要望が多かった。

◎ふらの牛乳は、コップよりビンの方が良いとの意見があった。

(4)交通について

◎市内中心地からは無料連絡バスを随時運行させたことが好評であった。

◎市内遠隔地からの来場を考慮し、急拠路線バス無料乗車券を発行したが、当初から決めておくべきであった。

(5)アトラクションについて

◎評判は良かった。

(6)その他

◎農産物引き渡し用の六角テントで特設舞台が隠れ、参加者に不満の声があった。また、配置人数が多すぎてテント内が狭い。

◎お土産を買いにワインハウスに行く人が多く、その出入りは自由にできるので、会場出入口でチェックを行うべきである。

◎へそ祭り同様、開催日時を定着させてはどうかの声がある。

改善事項

(1)前売券売捌所について

◎実行委員になっていただいた各連合会長宅を売捌所として依頼、前回以上の売れ行きになってはいるものの各連合会長からの評判は決して良くなく再検討を要する。市外での前売券発売についても調査検討が必要である。

(2)開催日時について

◎土曜日の参加者が少ない。特に中高生、小人が少ない。市民が参加しやすい時間に改善すべきである。

◎イベント時間は11時30分から15時とし、入場時間の制限は終了時の30分前に行うべきである。

◎開催を11時から16時までの1日とし、雨天の場合は次週延期にしてはどうか。

◎イベント日程は1年前に決定すべきである。

(3)交通について

◎祭り終了時間前後に帰る客が集中する。終わる時間帯のみバスの借上げ台数を増やしてはどうか。

(4)アトラクションについて

◎タレントの出演時間帯を検討する。

(5)会場について

◎六角テントは会場中央に設置したが、両サイドに分けて2か所設置してはどうか。

◎第2受付からの入場者は少なく、検討が必要である。但し、トイレ、ワインハウス、散策などの出入りがあるので、型紙を渡すなどチェックのできる方法が必要である。

(6)農作物は、農協との協力体制ができてきたので、準備と責任を農協にまかせてはどうか。

(7)実行委員各団体からの参加

◎内容、規模が大きくなるにつれて人員不足はゆがめない、全市的な祭りとして定着させていくためにも、各団体からの参加を早くから要請していく必要がある。

(8)ふらのワイン・ぶどう祭り開催要綱の制定

◎開催要綱を決め、役員、実行委員、予算等の充実を図る必要がある。

ふらのワイン・ぶどう祭りの会場としては、ワイン工場、ワインハウス、ぶどう園などがある清水山が最適と考えられるが、現在は清水山の一部である緑地広場のみであり、会場面積が狭いことに将来に向けての最大課題があると思われる。富良野の自然と秋の味覚を満喫する特色があるイベントとして定着させるため、将来5,000人以上を収容できる会場として清水山全体をイベント会場にすることが考えられる。具体的内容として、イベント会場入口はワイン配送センター広場、アトラクション及び食べ放題と飲み放題はラベンダー下の緑地広場、郷土特産物即売場及び子供遊び広場はワインハウス駐車場、喫茶コーナー及び郷土料理試食コーナーはワインハウス、ワイン工場見学及び新製品試飲会はワイン工場、遅咲きラベンダー観賞会及びぶどう狩りはワイン工場農園、会場内は関係者以外車輛通行禁止、イベント会場入口から各会場までは徒歩とするなど、イベントの大型化を目指すためには会場の広域化、内容の充実化を図る必要性があり、今後の検討事項と思われる。

収支決算は、表8のとおりで38,916円の黒字会計である。予算構成の基本として、補助金、協賛金の収入は準備費の支出に、入場料金は実施費の支出に充当し、利益追求ではなく内容の充実に重点を置いている。予算では入場予定人数3,500人を収入基礎としているが、実績人数は2,724人で決算との収入金額差が生じており、人員把握の難しさが指摘される。

ワイン事業が、市民の協力のもとで経営的に安定し、ワイン販売量の50%以上が富良野で消費されている実情から、市民に対する謝恩の意味を持つところに、このイベントの意義があると考えられる。

3. ワールドカップ富良野大会

富良野スキー場は、自然環境と観光が直結した代表的な資源であり、最大斜度33度、平均斜度18度で初級から上級までレベルに合わせて滑走できるスキー場として注目されている。1960年国設北の峰スキー場として区域指定され、1962年10月商工会議所が中心となり第3セクター方式による北の峰観光開発株式会社(1978年5月富良野観光株式会社に社名変更)が発足して一般スキー客やイベントの誘致を目標としてリフトやロッジの建設などスキー場の開発を推進してきた。1972年国土計画株式会社の資本となり、1976年10月国設北の峰スキー場から国設富良野スキー場に名称変更されている。1982年新スキー場164.09haを増設し、富良野ゴンドラ運行と同時に本格的なダウンヒルコースが完成した。これには、スペースコースとザイラーコースがあり、前者は国際スキー連盟コース委員長フーベルト・スペース氏の設計で、いずれも自然を生かしたコースである。1986年12月北の峰ゴンドラ(6人乗り)と北の峰ターミナルが建設された。スキー客の代表的宿泊施設としては、1974年12月富良野プリンスホテル(客室数114室)、1988年12月新富良野プリンスホテル(客室数407室)が開業している。北の峰ゴンドラコースは、標高940mで、北の峰ゴンドラ2,958m、北の峰第1高速リフト(4人乗り)1,058m第4リフト1,136m、第5リフトA・B線740m、第6リフトA・B線732m、第7リフトA・B線1,090mがあり、第8リフト925mで富良野ゴンドラコースに連結されている。富良野ゴンドラコースは、標高1,209mで、富良野ゴンドラ2,416

表8 '88 ぶらのワインぶどう祭り収支決算書

収入 9,753,800円
 支出 9,714,884円
 差引 38,916円

収入の部		予算額	決算額	増減額	内 訳	
入	場 料	8,930,000	6,805,800	△ 2,124,200	前売券 当日券	
補	助 金	2,900,000	2,900,000	0	市補助金 2,200,000、振興公社 500,000、ぶどう果樹研究所 200,000	
雑	収 入	0	48,000	48,000	御祝儀	
合 計		11,830,000	9,753,800	△ 2,076,200		
支出の部		予算額	決算額	増減額	内 訳	
支 出	準 備	総 務 費	110,000	287,398	177,398	送金手数料、旅費、賃金、タクシー代、若人あきら食事代、保健所申請手数料、コピー代、報道・添乗員入場者
		印 刷 費	295,000	294,920	△ 80	パンフレット、入場券
		広 告 料	175,000	175,000	0	道新、タイムス、日刊富良野
		需 要 費	112,000	95,858	△ 16,142	テーブル、テーブルクロス、のし袋、ゴム印洗面器、花火、オスバン液、コンロ修繕、その他消耗品
	謝 礼 金	1,100,000	971,447	△ 128,553	若人あきら、民謡、へそ踊り、島バンド、ミスワイン、婦人会、放送・JR関係者、車借上	
	記 念 品	70,000	0	△ 70,000		
	会 場 設 営 費	250,000	268,800	18,800	仮設舞台、看板、電気設備、簡易トイレ、エースロープ、	
	備 品 費	753,000	724,000	△ 29,000	コンロ、ワイン架台	
	予 備 費	35,000	0	△ 35,000		
	小 計	2,900,000	2,817,423	△ 82,577		
実 施 部	費	ワ イ ン 費	1,610,000	1,252,050	△ 357,950	ワイン代
		農産物・チーズ費	852,000	883,024	31,024	ジャガイモ、スイコン、カサネ、チーズ、ぶどう
		牛 肉 費	4,075,000	3,166,845	△ 908,155	牛肉代
		牛乳・ジュース費	426,000	387,500	△ 38,500	牛乳・ジュース代
		需 要 費	181,000	456,907	275,907	割りばし、コップ、受皿、その他消耗品 第1接待、第2接待
		貸 金	534,000	465,075	△ 68,925	臨時賃金、第1接待、第2接待
		会 場 費	314,000	286,060	△ 27,940	ポリバック、ステン火バサミ、軍手、ゴム手袋、生ゴミ回収委託、ゴミ回収人夫費、標識ロープ借上、弁当代
		総 務 費	250,000	0	△ 250,000	
		予 備 費	688,000	0	△ 688,000	
		小 計	8,930,000	6,897,461	△ 2,032,539	
合 計		11,830,000	9,714,884	△ 2,115,116		

(出所：ぶらのワインぶどう祭り実行委員会資料)

m, 富良野ダウンヒル第1高速リフト(4人乗りフード付)1,949 m, ダウンヒル第2 ロマンリフト 610 m, ダウンヒル第3リフト 571 mが設置されている。現在, 富良野スキー場は, 国際スキー連盟(F I S)及び全日本スキー連盟公認による滑降, 回転, 大回転の公式競技コースを持っている。山岳スキー場からスキー競技場として着目されたのは, 1945年以降であり, 1952年全日本スキー選手権アルペン大会開催, 1953年国民体育大会アルペン種目開催, 1975年2月第30回国民体育大会冬季大会スキー競技会が開催されてきたが, 国内外への知名度と評価の高揚をもたらしたのは, F I Sワールドカップ富良野大会であろう。ワールドカップは, スキーの他にラグビーやサッカーなどが代表的な例としてあげられるが, ラグビー, サッカーのワールドカップは, 4年に一度, 各地区の代表チームによってチャンピオンシップを争うのに対して, スキーは, 毎年いくつかの会場を転戦しながら複数のレースを戦っていくという特徴がある。スキーワールドカップは, 国際スキー連盟が主催する中で最もレベルの高い競技である。スキーワールドカップが初めて開催されたのは1967年1月であるが, フランスの新聞記者セルジュ・ラング氏がシーズンを通したシリーズ戦を組織してトップレーサーにより多くの戦う場を提供すると共に, 本当に実力のある選手がチャンピオンとなることを願ってF I Sに働きかけ創設されており, 現在ではアルペンレースもダウンヒル(滑降), スーパーG(スーパー大回転), スローラム(回転)の4競技に細分化され, 冬季スポーツ最大のイベントに成長している。日本で初めて開催されたのは1973年で, 以後隔年開催となり, 1985年から1987年は連続で実施されている。開催場所は, 1975年が苗場スキー場, それ以降は富良野スキー場で, 1977年, 1979年, 1981年, 1983年, 1985年, 1986年, 1987年, 1989年と過去8回富良野大会を開催している。さらに1991年には, ワールドカップ富良野大会(女子の滑降, スーパー大回転の2種目)が決定している。日程は1991年2月23日, 24日の両日で, 一週間後の3月4日, 5日は, ユニバーシアード冬季大会の男女滑降が行われる。

'89 F I Sワールドカップ富良野大会について述べる。

主催は国際スキー連盟ワールドカップ委員会, 主管は国際スキー連盟, (財)全日本スキー連盟, (財)北海道スキー連盟, 富良野スキー連盟, 後援は北海道, 富良野市であり, 1988年9月1日全日本スキー連盟から富良野スキー場開催決定の通知を受け, 9月21日第3回定例富良野市議会で開催地として決定した旨の行政報告, 11月1日全日本スキー連盟から開催地後援依頼の通知を受けて実施に至っている。'89ワールドカップ・スキー大会は, 男子が27レース, 女子が25レースで, 11月下旬オーストリアで始まり, スイス, イタリア, フランス, 西ドイツ等を転戦し, 2月にアメリカ, カナダへ渡り, 最終戦で日本にくるといふ北半球の冬を駆け巡る一大サーキットである。

富良野大会の競技日程は, 3月3日に男子大回転, 女子回転, 4日に女子大回転, 5日に男子回転の男女同時開催で, 参加国は, 日本を含めて17か国で, 男子81人, 女子65人, 計146人である。そのうち日本選手は, 男子7人, 女子4人, 計11人が参加した。

大会実行委員会は, 競技部と運営部が設置され, 競技部は, コース, 旗門, 計時, 掲示板, 会場, 用具, 庶務・渉外通訳の7部門, 運営部は, 総務・接待, 経理, 報道, 宣伝, 宿泊・式典・選手村, 輸送, 調達, 車輛, 渉外, 会場・施設の10部門に細分化されている。

富良野市実行委員会は, 事務局を市役所内に置き, 総務部, 渉外宣伝部, 歓迎宿泊部, 観客接待部, 交通部, 衛生部, 施設部, 会計部のほか支援隊として陸上自衛隊上富良野駐屯地第4特科群がある。業務内容について, 総務部は, 実行委員会, 常任委員会, 規定の改廃, 関係機関並びに各種団体との連絡調整, 各種記念品, 記章の作成配付, 自衛隊の支援要請及び連絡調整, その他総務に関すること, 渉外宣伝部は, 来賓招待状の発送, 招待者の宿舎, 配車計画並びに接待, 外国選手のレセプション, 大会の宣伝, 広報活動, その他渉外, 宣伝に関すること, 歓迎宿泊部は, 大会の歓

迎、市民の協力運動推進、入込客の事前調査及び対策、宿泊計画と宿泊施設の確保、宿泊案内、記念品の販売、市民と選手の交歓パーティー、その他歓迎宿泊に関すること、観客接待部は、選手、役員の接待、観客の誘導及び案内、その他観客接待に関すること、交通部は、交通に関する総合計画、交通規制と、交通標識、案内板、交通の整理及び誘導、その他交通に関すること、衛生部は、環境衛生及び食品衛生、選手、役員等の救護及び保健医療、その他衛生救護に関すること、施設部は、大会関連施設整備の協力、大会関連道路の除雪整備、一般駐車場の設置及び除雪整備、その他施設に関すること、会計部は、予算及び決算、物品購入に伴う契約事務及び検収、支出命令に関すること、支援隊は、競技会場の整備援助、競技実施に必要な通信網の構成及び管理、音楽演奏に関することである。

受入側の最大の課題は、運営のスムーズ化と観客動員である。競技運営は、綿密な打合せのもとで遂行されるが、最大の難問は競技コースの整備であり、陸上自衛隊上富良野駐屯地支援隊の活躍があげられる。地支援隊の動員は、2月20日の団結式から大会終了迄の15日間で延べ2,000人を越えている。大会期間中の3月3日夜から4日未明にかけては、降雪があり、コースにはポールが立っているため雪上車の使用が不可能で、スノーダンプによる排雪、圧雪はつぼ足とスキーによる人海戦術、4日は、降雨により急廻速成のビニールをかぶりコース整備を行うなどの努力が実り、選手、役員から絶賛されるほど競技はスムーズに運営された。

観客の動向は、'77大会は28,000人、'79大会は19,000人と低迷、'86大会は37,000人を記録したが、'89大会は、3日が11,000人、4日は悪天候の影響で3,400人と1日の入場者数として過去最低であったが、5日は天候が回復し21,500人が入場、延べ実数は35,900人で、動員目標の35,000人を達成している。

その背景として、宣伝の拡大と会場までの利便性がある。観戦ツアー企画依頼については、道内主要エージェントに対し、企画書の送付を212店、ポスター・パンフレットの送付を120店、ツアー企画エージェント訪問を札幌方面15店、帯広方面11店、旭川方面7店、苫小牧方面8店、上川管内スキー愛好会ツアー依頼を50か所、旅館組合観戦ツアーの周知を33か所行いし、一般客については、入場券(大人1日1,000円、小・中学生1日500円)を富良野市内24か所、市外10か所に販売依頼し、歓迎ステッカーは、2,000枚印刷して市内官公庁、商店、事業所へ配付し、宣伝を行っている。

大会を盛り上げる手段として、のぼり、大型懸垂幕、参加国旗の掲揚により歓迎ムードを演出した。特に宣伝では、大会期間中に一般スキーヤーは滑れないと誤解されてきたことから、競技観戦とスキーを同時に楽しめるツアー企画を道内旅行会社に依頼したほか、1月末から大会前日まで宣伝カー2台を使用して、全道36市町村、延べ距離数2万Kmを巡回している。NTT富良野報局では、テレホンサービスによる情報提供を行い、大会前日までは、大会プロフィール、競技日程、観戦の見どころ、会場や交通案内、大会当日は、それにレース結果が加わっている。また、各国選手と市民の交流を深め、併せて選手の緊張緩和のために実行委員会主催による市民と選手の交歓パーティーが3月1日に開催された。選手村である新富良野プリンスホテルの会場に市民4,000人、選手、コーチ200人、計600人が参集している。

パーティー開催は、1979年、1983年の大会以来3度目で、過去2回は最終日のサヨナラパーティー方式であったが、'89大会は、競技前の開催で歓迎の雰囲気上昇が図られている。収支決算は、表9の通りである。大会期間中は、ゴールエリア付近に記念品、飲物、軽食等を販売する臨時店舗が出店したが、ペットマークに人気がある。ペットマークが考案されたのは、'85富良野大会(男子滑降、男子スーパー大回転)の時、ワールドカップの滑降レースが日本で初めて開催されることを記念して、富良野の市鳥クマガラを擬人化したもので、キャラクターデザイナー沼田望氏のデザイ

表9 '89 FIS ワールドカップ富良野大会富良野市実行委員会決算調書

収入				
(単位：千円、決算額・増減＝円)				
項目	予算額	決算額	増減	明
交付金	5,600	5,285,653	△ 214,337	全日本スキー連盟交付金
補助金	5,000	5,000,000	△	富良野市補助金
雑収入	2,400	2,075,842	△ 324,158	記念品販売収入(記念杯/バウ)
				記念品販売収入
				駐屯地管理料
				市広域交際会特別会計繰入金
				入場券売り場子賃料
合計	12,900	12,361,505	△ 538,495	

支出				
項目	予算額	決算額	増減	明
総務費	4,270	5,404,480	1,134,480	
当務費	1,824	2,632,080	808,080	消耗費(給食/飲み水、非常用) 広告費(新聞掲載広告料4社) 使用料(文化会館使用料) 備品費(新リタミ椅子) 検印費(写真/バウバウ) 渉外費(ロゼワイン外)
渉外費	2,446	2,772,400	326,400	2,236,600 円 535,800 円
渉外費	2,110	2,013,673	△ 96,327	
渉外費	1,200	951,360	△ 248,620	検印費(通称招待状外) 検印費(通称招待状外) 使用料(バウ/使用料外)
広報費	180	299,689	119,689	299,689 円
宣伝費	730	762,604	32,604	検印費(VHSテープ外) 検印費(広域用テープ外) 検印費(検印用紙) 検印費(検印用紙)
検印費	1,565	1,347,730	△ 218,270	
検印費	1,032	883,730	△ 148,270	検印費(ワイン外) 検印費(特選紙) 検印費(バウ/バウ/検印外) 検印費(バウ/バウ/検印外)
宿泊費	70	0	△ 70,000	0 円
市広域交際	464	464,000	0	交付金(市広域交際特別会計交付金)
市広域交際	430	163,304	△ 266,696	
視察接待	430	163,304	△ 266,696	市広域(コニー外) 使用料(ハイキー外)
交通費	428	337,923	△ 90,077	
交通費	428	337,923	△ 90,077	市広域(市広域、ガソリン外) 委託料(印刷製作)
衛生費	215	242,865	△ 2,135	

項目	予算額	決算額	増減	明
衛生費	245	242,865	△ 2,135	交際料(医師会協賛) 検印費(普受紙) 検印費(ワイン外) 検印費(ワイン外) 検印費(血圧計外)
施設費	2,126	1,520,920	△ 605,080	検印費(駐屯地領収書印外) 検印費(駐屯地領収書印外) 検印費(駐屯地領収書印外) 検印費(駐屯地領収書印外) 検印費(駐屯地領収書印外) 検印費(駐屯地領収書印外) 検印費(駐屯地領収書印外)
施設費	2,126	1,520,920	△ 605,080	
支払	1,568	1,329,721	△ 338,279	
支払	1,568	1,329,721	△ 338,279	検印費(補食外)
千円	57	0	△ 57,000	千円費
千円	57	0	△ 57,000	
合計	12,900	12,360,616	△ 539,384	

収入合計 12,361,505 円
 支出合計 12,360,616 円
 差引残額 889 円

(出所：ワールドカップ富良野大会富良野市実行委員会資料)

ンである。ペットマークの愛称は、富良野市内の小・中学生から公募され「Mr. Fu (ミスター・フー)」に決定している。ミスターは男子の滑降、フーは富良野を示し、Fuの上についている山形の記号は、山のイメージである。応募総数1,015点の中から、当時富良野小学校6年生の清水真由美さんの作品が選出された。'86富良野大会(女子滑降、女子スーパー大回転)では、ミセス・マドマアゼルとしている。以来、これらは、ステッカー、ポスターを初め、Tシャツ、ワッペン、バッジ、キーホルダー、ふらのワイン、缶コーヒー、缶ビール、ウィスキー、テレホンカードなどの大会記念品に使用されている。

このようにして、富良野スキー場は世界的なスキー場に発展したが、その入口には、ワールドカップの記念塔で、商業デザイナー、土門敏夫氏の製作である。「地球の存在する宇宙の中心に太陽が輝くように、わが日本国に残された希望の大地北海道も亦、その中心にへそのままと称する富良野が光っている。そして世界のスキートップレーサー達の熱い想いの中に輝き続けるだろう……。(後略)」このようなテーマをかかげた北の峰記念塔は、中心標と共に新しいシンボルになっている。

富良野市環境協会は、スキー客誘致のために毎年キャラバンを派遣している。道内市町村役場やJR駅、スポーツ店等を巡回し、PR映画の上映会やポスター、パンフレットの配布によりスキー場への来場を呼びかけている。

交通では、千歳空港～札幌～富良野間、札幌～富良野間を約2時間で結ぶ豪華な展望車付きノンストップリゾート特急、フラノエクスプレス号がシーズン中毎日運行する。フラノエクスプレスは、全体的にハイデッカースタイル(高床式)で車体の色は白を基調にピンクとブルーのラインで統一されたスマートな列車で、全席回転式リクライニングシートで窓が天井まであり、開放的でクリアな室内空間を持っているのが特徴である。4輛編成の定員140人で、JR北海道が国土計画との提携により運行するもので、JR北海道車輛、国土計画車輛がある。札幌からの日帰りスキーが可能なることから、1988年3万人、1989年5万1千人の利用があり、富良野の観光振興に大きな役割が期待される。また、市では市民ぐるみで根室本線、富良野線の利用推進運動を展開しているが、エクスプレス号の運行は、将来に、明るい希望を持たらすものである。

4. イベントの意義と課題

経済効果を達成できるイベントを展開するには、集客力、内容の特異性、計画性のある資金調達、既存施設の有効利用、経統生などの諸条件があるが、その底辺として地域住民の理解と参加があげられる。前述したイベントは、富良野の三大イベントと言っても過言ではないが、いずれも各階層の市民が参加したことに意義がある。

富良野市は、純農村都市からリゾート都市へと発展する中で、行政主導から民間主導への移行により市民体験に基づいた将来のまちづくりの方向性を探ることが要求される。そのモデルケースとして、ふらの100年委員会主催の「走れ夢大陸、フラノエクスプレス市民ツアー」がある。この市民ツアーイベントは、年齢や職種の違いを乗り越えて参加した市民と共に将来のまちづくりを考え実践、底力のある郷土ふらのづくりに役立てようとして企画されたもので、2日間の日程で160名程度が参加している。ツアー先は、1987年札幌・大沼公園、1988年釧路市、1989年小樽市で、例えば、釧路市は丹鶴の生息地である釧路湿原を国定公園に指定し自然保護に取り組む一方、観光漁港ショッピングセンター構想とも言える釧路フッシャー・マンズワーフ開発のまちづくりに着手、小樽市は北海道の開拓を物語る歴史的、文化的遺産をまちづくりに生かし、一方ではまちををリフレッシュし、

活気と潤いのあるまちづくりを目指しシェイプアップマイタウン計画に着手しているなど学ぶべきところがある都市を選定している。こうした都市の施設見学会の他に、まちづくり車内セミナーとして講演、討論会の解説、富良野市の物産と観光PRイベントの実施、市民交流会の開催などすべて市民レベルで取組、その活動を通してまちづくり意識の高揚を図る地域活性化に直結したイベントである。まちづくりの理解を深め、他都市との交流の活発化や根室本線の乗車運動に役立つイベントとして注目すべきところがある。

富良野圏域では、上富良野町のかみふらのラベンダー祭り、十勝岳温泉紅葉まつり、上富良野まつり、中富良野町のなかふらのラベンダー観光まつり、南富良野町のかなやま湖々水まつり、カヌーフェスタ in かなやま湖、占冠村の占冠ふるさと祭り、紅葉まつりなど特色あるイベントが開催されており、各々観光事業に貢献しているが、圏域の連動的開催をしていない現状下であり、こんご圏域的なイベントの確立と推進を行うことにより、観光客の入込みの増加が期待できると思われる。

註

(1)富良野市郷土研究会『へそ文化考』1988年p.7,p.21~25

亀畑義彦(本学教授・旭川分校)

中根正彦(富良野市ぶどう果樹研究所次長)